

⑩ 長谷幼稚園 1952(S27)～

光則寺(長谷3-9-7)は1260年日蓮上人が執権北条時頼の家臣宿屋行時・光則の館を訪れ、立正安国論を幕府に建白したことにより佐渡流刑となった。弟子の日朗も光則邸の土牢に監禁されたが、その後宿屋父子が日蓮日朗に帰依し1274年自邸を寺院に創建し、現在に至る日蓮宗の寺である。

長谷幼稚園は宗教法人光則寺が高徳院住職の物心両面の応援もあり、県の設立許可を得て1952(S27)年6月24日に創立された。30年後の81(S56)年学校法人朗峰学園となった。この間の75年に鉄筋2階建ての堂々たる新園舎が完成し敷地面積も1877㎡という恵まれた環境が整った。

初代園長は住職の横山邦雄、邦雄の妹関口雅子が保育の資格を取得し創立当初より35年余り主任教諭として運営及び教育に尽力した。その後、光則寺住職横山仁雄が継いだ。昨年からは仁雄の妻まさ子が園長に就任して、園児たちから「まんも」と呼ばれ親しまれている。

邦雄が1987(S62)年に著した『衣裏繫珠』(えりけいじゅ)に建学の精神は法華経及び日蓮聖人の教えに基づき、地域の実情に即した幼児教育を行う事とある。

同著は仏教保育の問題点や現場での留意点等も記された長谷幼稚園の教育指針である。具体的な指針は

- ① 報恩感謝の念を養う。
- ② 「衣裏宝珠」—すべての子どもが持っている宝の珠を見つけ、この宝珠を気づかせてその力を発揮させるのが教育である。
- ③ 考え、工夫し新機軸を探求し続ける。

以上の 3 点に加えて、宮沢賢治の「雨ニモマケズ」に込められた自他の精神を養うことをめざした。



光則寺本堂でお弁当



えほんのへや

長谷幼稚園には仁雄が作った「えほんのへや」がある。幼い頃から良い本に親しませたいと、今では膨大な数の内外の絵本が部屋の壁を埋め廊下までみ出す。友だちと同じ本が借りられるように 2 冊ずつ揃えてきたという。父母たちは絵本の貸出しや読み聞かせの他、様々な企画を率先して提案し親同士も親密で園への協

力を惜しまない。園児たちは緑豊かな環境で園と父母会が一体となつてのびのびと慈しんで育てられてきた。2022年3月仁雄園長が癌を患い亡くなった時、ここで学んだ園児たち、父母や地域の人たちが参道にあふれ温かく見送った葬儀は、昨今目にしたことのない光景だった。

少子化と働く母親たちの増加による影響か、創立71年の長谷幼稚園も今年になって園児の数が特に減少したという。「せめて、子供が小学校に入るまでの限られた時間を親子がゆったりと過ごし気持ち安らぐ時間を大事にこの長谷幼稚園で持てないだろうか、いつときお母さんたちの働き方を工夫できないだろうかと模索しています。2歳児クラスや子供たちがフリーで遊べる園庭開放なども試みています」と、まさ子園長は語っていた。

